

令和5年度外国人児童生徒等教育充実のための研究協議会 記録 令和5年11月14日（火） 会場：伊勢崎市立坂東小学校

公開授業

単元 はんで意見をまとめよう （話す・聞く） 第3学年
クラスみんなで決めるには （話す・聞く） 第4学年

【ねらい】

話し合いで使う言葉を意識して、互いの意見の共通点や相違点に着目して話し合いをすることができる。

（議題）日本語教室の1年生に教える遊びを決めよう （4年生3名）

つかむ

追究する

まとめる

1 学習のめあてをつかむ

2 話し合いのポイントの 確認

3 議題について話し合う

4 振り返り



必要感のある魅力的な活動



本時で学ぶことを明確にし、学習内容への意識を高める工夫



分かりやすい言葉で学習できる安心感



話し合いのポイントを基に、学んだことを振り返る
（学びの自覚・次時への意欲付け）

事後の学習

在籍学級で、自信をもって話し合い活動に参加
（できる喜びの実感）



黒板に掲示された授業の流れを共有
理解支援
（文字と対話による確認）



話し合いのポイントの明確化
理解支援
（学習内容の意識化）



教師が児童にアドバイスをしたり、やさしい言葉に置き換えたりしながらの話し合い活動
表現支援・情意支援（学習内容の焦点化・交流の活性化）

【協議テーマ】 日本語指導教室と在籍学級をつなぐ指導の在り方 ～教科学習を通して～



< 班別協議で出されたキーワード >

- ・ 先行学習、主体的に学ぶ力を育てたい、校内の組織を整える
- ・ やさしい日本語へ置き換えて学習につなげる ・ 実態把握
- ・ がんばりを伝え合う ・ 日本語の単語（言葉）と意味をつなぐ
- ・ お互いの良いところを認めてコミュニケーションをとる
- ・ 意図的に、計画的に ・ 連携は、ひとつにしぼる ・ 個に応じる
- ・ 関係職員との打ち合わせの時間の確保 ・ 活躍の機会をつくる
- ・ 在籍学級と連携した先行学習 ・ 教科担当や担任とのこまめな情報交換
- ・ できたという安心感をもたせる ・ 在籍学級に繋ぐ支援
- ・ 日本語教室でできること、在籍学級でできること

< 参加者の感想より（公開授業含む） >

- ・ 統一した指導法ではなくても、教科連携など、教師間のコミュニケーションをしっかりと取る必要があると感じました。
- ・ 日本語だけの指導だけでなく、教科指導につながる方法であればこの先の進路やテストにも役に立つと思いました。
- ・ 「他市との日本語指導についての意見交流の場がほしい」との意見が出ました。教材の共有等ができれば県全体の指導力が上がるのでは、との話でした。
- ・ 初期対応の学習についての様子、授業も参観したいです。

①日本語指導・・・表面的な言葉の力だけでなく、考える力を育む授業 思考に刺激を与える

まとめ

②学校としてのノウハウを蓄積、整理 個人のスキル→共有 ICTの活用（クラスルーム等）

③子供たち一人一人の小さな成長を喜び合う学校文化 喜びの共有 つい続きを聞きたくなるような会話